

本年の日供神饌講社大祭・饗宴祭は、六月三十日、愛知県岡崎市講元講員の皆様により大膳職以下所役をご奉仕いただき、賑々しく齋行できました。ご報告とともに講員の皆様に厚く御礼申し上げます。

古代の地震の記録

東日本大震災は明治以来の日本の自然災害としては大正十二年の関東大震災に次ぐ犠牲者を数えることになり、戦後最大の国難といわれるに至りました。四か月近くを経た現在もなお七千数百名の方々が行方不明のままであり、十一万名にのぼる方々が（六月二十三日現在）避難所や避難先での不自由な仮住いを強いられ、半壊状態の自宅に無理して暮らす方々も多数おられるようです。復興への街づくりはいまだ道遠しの状態であり、原子力発電所の放射能拡散に至っては長年月にわたる影響が懸念され、警戒区域内では全住民が避難を余儀なくされ、いわば復興以前の状態といえます。被災者の皆様の一日も早い生活の安定と原発問題の収束、そして地域の復興再生を心よりお祈り申し上げます。

千年に一度の巨大地震といわれ、平安初期、西暦八六九年の貞観地震のことがクローズアップされました。貞観地震はマグニチュード八・三と推定される三陸沿岸の巨大地震で、当時の歴史書『三代実録』に、城郭等の倒壊多数にのぼり、津波が多賀城下を襲い、千人以上の溺死者があったとの記録があります。このころ数年おきに推定マグニチュード七クラスの地震が記録されています。日本古代の地震の最初の記録としては、日本書紀に允恭天皇の五年（四一六

年）の記載があります。推古天皇の七年（五九九年）には倒壊家屋の記事があり、地震被害の最古の記録となっています。その後天武天皇の十三年（六八四年）には、四国から東海沖の地震で巨大津波が襲い、土佐で十二平方キロにわたって沈下して海となったとの記述があり、最古の津波の記録となっています。

想定外の巨大地震・巨大津波といわれましたが、災害の大きさを従前の知識から想定し、それ以上のものは来ないとするのは、いわば人智人力をもって神意を推し量ることであり、最先端の技術を以てあらゆる災害は防げるとするのは、人間を全知全能であるとする思い上った考え方だといえます。そうではなくて想定外の災害は常に起りうるものであり、災害が起ったときにどうするかを常に念頭に置かなければいけません。現在の科学で明らかになっていることはごく一部のことであり、天地自然の動きに対してもっと謙虚にならなければいけない、地球の歴史数十億年の間にいかに多くの地殻変動が繰り返されたかを考えるべきだといえます。災害は天の警鐘であり、そのような意味で国家社会全体が反省すべきことではないでしょうか。

饗宴祭神饌―堅田鮎包み焼き



饗宴祭神饌の堅田鮎包み焼き

堅田鮎は源五郎鮎の別称。

天智天皇崩御ののち跡を継がれた弘文天皇は、吉野に隠棲されたという大海人皇子（天武天皇）の動向に不安を抱かれ、周囲の助言もあって討伐を図られました。弘文天皇の妃の十市皇女は大海人皇子の皇女でもあり、夫と父との間で悩むなか、父を助けるため、包み焼きにした堅田鮎の腹中に密書を入れて、吉野の父

君のもとへ夫君側の臨戦準備を伝え、大海人皇子の早々の蜂起につながったとの説が、鎌倉時代の説話集『宇治拾遺物語』に記載されています。

鎌倉時代の名歌集『新撰六帖』に収める藤原家長の歌にいにしへはいともかしこし堅田鮎包み焼きなる中の玉づさと詠まれています。

四條流の料理書には結び昆布・串柿・栗などを入れた特別の調理法が伝えられています。

大友天神社

今回の饗宴祭は愛知県岡崎市の講元講員の皆様にご奉仕いただきました。岡崎市内には西大友町という地名があり、弘文天皇（大友皇子）をお祭りする大友天神社が鎮座しています。各地に弘文天皇にまつわる伝説があり、お祭りする神社がありますが、その代表的な一つです。壬申の乱のち大友皇子は従者とともに当地に落ち延



大友天神社

びて住み着き、その従者の子孫がお祭りしたと伝えられています。近くには御陵伝説地もあります。また同町内の玉泉寺という寺院は、近江から捧持した三体の仏像の一つを奉安して大友皇子が創建されたと伝え、当初は白鳳山の山号で称せられたとのこと。氏子の皆様には近江神宮創建当初より崇敬いただき、代表者には饗宴祭の他にも例祭をはじめ毎年何回か参列いただいています。

轟太鼓

近江神宮では外拝殿にある大太鼓を毎朝夕に鳴らして時を知らせています。この太鼓は昭和五十二年四月二十九日、昭和天皇のご在



重量 150貫 (460cm)
直径 115cm 胴横幅 135cm

来となりました。現在午前七時と午後五時に太鼓を打ち、大津京の昔さながらに時を知らせています。

本年後半の祭典行事

七月七日午前十一時

七月二十日午前九時

七月二十三日・二十四日

八月二十一日午後一時

八月二十四日午前十一時

十一月三日午後〇時三十分

十一月七日午前十一時

十二月一日午前十時

燃水祭
献灯祭

昨年引き続き納涼祭にかえて献灯いただいた方の祈願を行う献灯祭を行います

全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会

献書祭

弘文天皇祭

流鏝馬神事

御鎮座記念祭

初穂講大祭

近江神宮ホームページでカラーで見られます。

<http://www.oumi-jingu.org/>

位五十年の年に当たってその奉祝事業の一つとして、崇敬者グループの一つであった皇尊会の提唱により、多くの奉賛者の拠金によって奉納いただいたものです。天智天皇十年の漏刻を初めて設置し用いた時の日本書紀の記事に、鐘鼓を打ち時を知らせたとあるのにもとづき、時報の太鼓を設けたものです。周知のとおりこの記事が時の記念日の由